

人×テクノロジーの力で、業務プロセスをもっと進化させる

BPS(ビジネス プロセス サービス)とは?入門ガイド



Agenda

1.企業が抱える課題

2.業務効率化・生産性向上の選択肢

3.BPSとは

BPSとBPO、BPaaSの違い

なぜBPSが注目されているのか

BPO導入によって期待される効果

BPSの導入メリット

BPSの対象業務

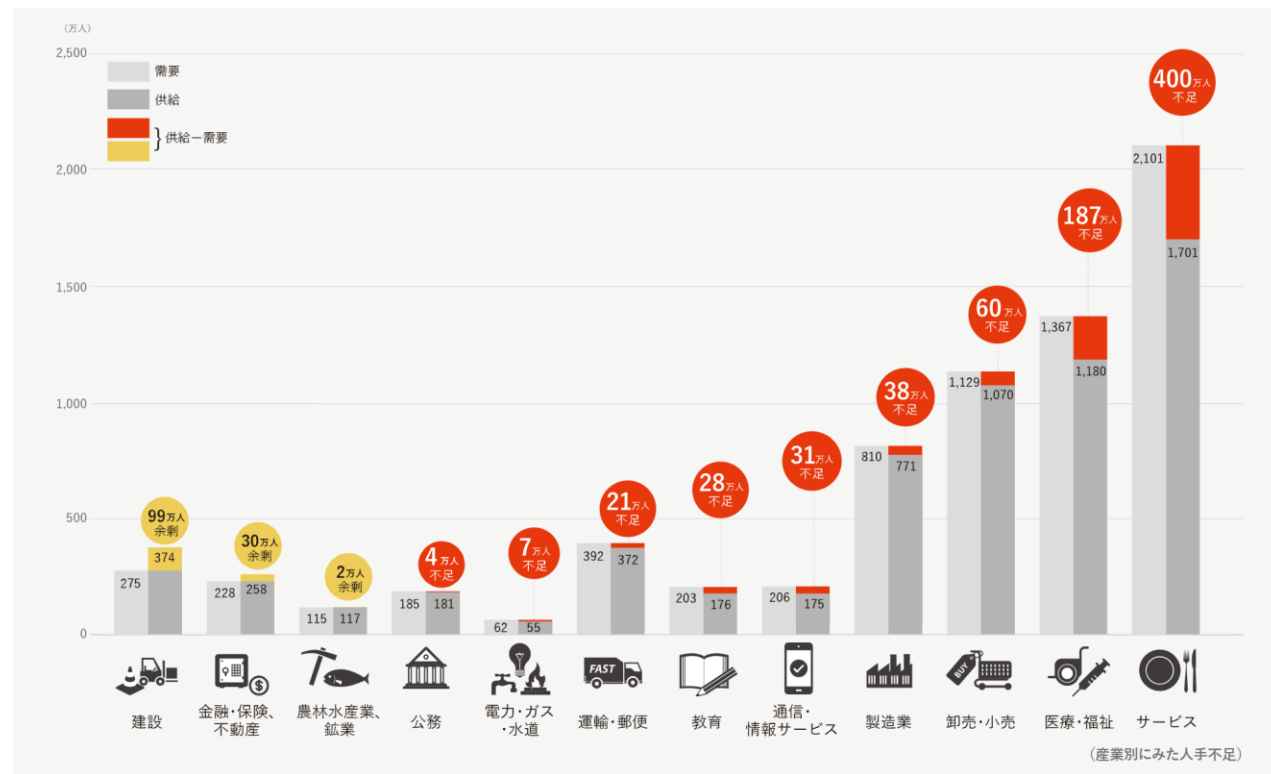
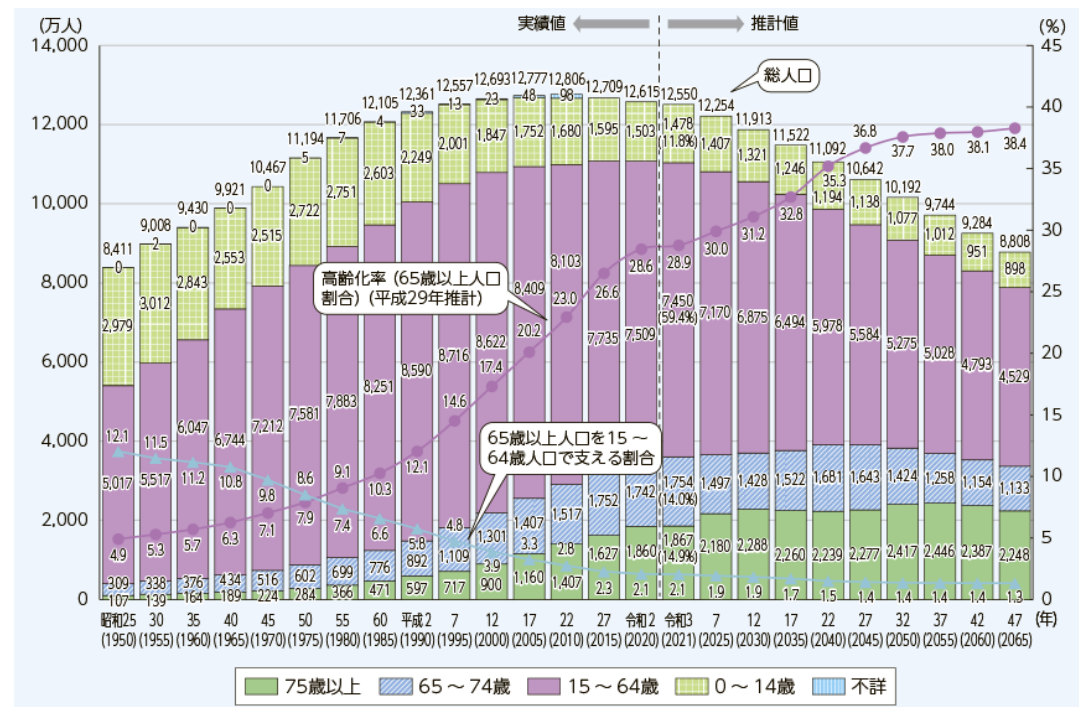
3.スターティアレイズのBPSソリューション

4.スターティアレイズについて

1：少子高齢化による人手不足

日本では年々少子高齢化が進み、生産年齢人口（15～64歳）の減少が深刻化しています。総務省の統計によれば、**1995年をピークに生産年齢人口は減少の一途をたどり、2050年には現在の約6割程度にまで縮小する見込み**です。この人口動態の変化により、企業は慢性的な人手不足に直面しています。特に中小企業では、新規採用が難しく、業務負担の増加や採用コストの上昇が事業継続に影響を及ぼしています。

また、パーソル総合研究所によれば、**2030年には約644万人の人手不足が予測されており、特にサービス業や医療・福祉業、卸売・小売業など、現在も人手不足が深刻な業種での不足が顕著**とされています。このような状況の中で、**限られた労働力でも持続的な成長を実現するためには、生産性向上が不可欠**です。

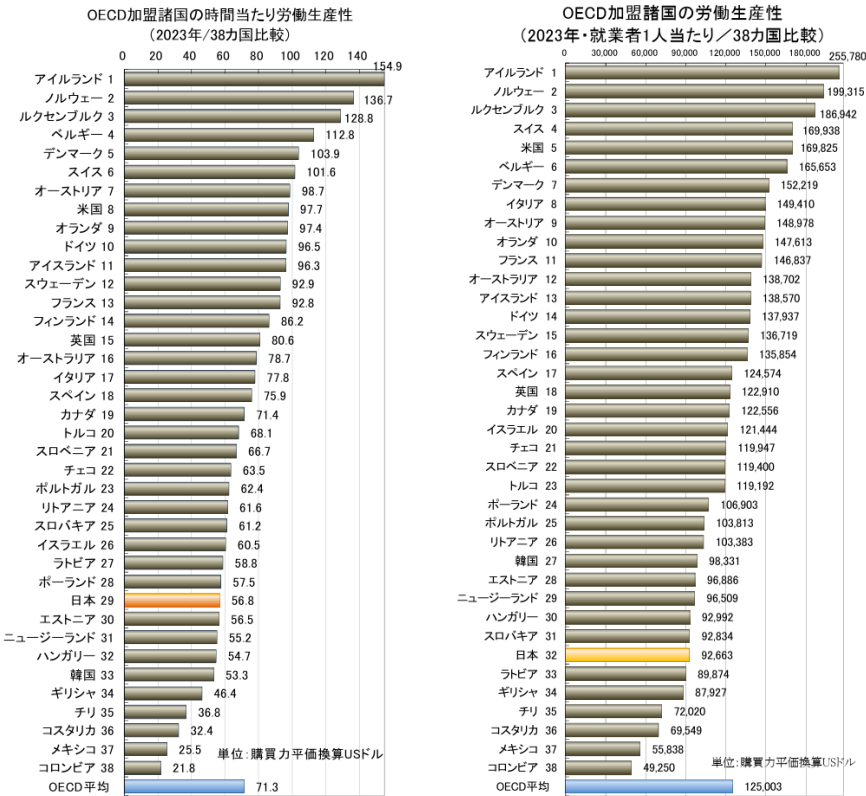


出典元：総務省「第1部 特集 情報通信白書刊行から50年～ICTとデジタル経済の変遷～」
 パーソル総合研究所「労働市場の未来推計 2030」

2：日本の労働生産性の低さ

日本の労働生産性は、OECD（経済協力開発機構）加盟38カ国の中で低い水準にあります。2023年の時間当たり労働生産性は56.8ドルで、OECD加盟38カ国中29位となっています。また、1人当たり労働生産性は92,663ドルで、OECD加盟38カ国中32位と1970年代以降で過去最低の順位を記録しています。

特に、日本の労働生産性は主要先進国と比較しても大きく遅れをとっています。例えば、**米国、ドイツ、フランス**と比べると、**日本は大幅に低い水準**にあることがわかります。
この背景には、長時間労働の慣習、技術革新の遅れ、産業構造の変化などが影響を与えていると考えられ、国際競争力を維持するためにも、日本の労働環境の変革と生産性向上が重要です。



時間当たり労働生産性 上位10カ国の変遷							
	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年	2023年
1	スイス	ルクセンブルク	ルクセンブルク	ルクセンブルク	ルクセンブルク	アイルランド	アイルランド
2	ルクセンブルク	スイス	ドイツ	ノルウェー	ノルウェー	ルクセンブルク	ノルウェー
3	米国	オランダ	ベルギー	ベルギー	米国	デンマーク	ルクセンブルク
4	スウェーデン	米国	オランダ	オランダ	アイルランド	ノルウェー	ベルギー
5	カナダ	スウェーデン	スイス	スウェーデン	ベルギー	ベルギー	デンマーク
6	オランダ	ベルギー	米国	米国	デンマーク	フランス	スイス
7	オーストラリア	ドイツ	フランス	フランス	オランダ	オーストリア	オーストリア
8	ベルギー	アイスランド	スウェーデン	ドイツ	スイス	スイス	米国
9	イタリア	カナダ	ノルウェー	スイス	スウェーデン	ドイツ	オランダ
10	デンマーク	イタリア	イタリア	デンマーク	フランス	米国	ドイツ
-	日本 (19位)	日本 (19位)	日本 (19位)	日本 (21位)	日本 (20位)	日本 (28位)	日本 (29位)

就業者1人当たり労働生産性 上位10カ国の変遷							
	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年	2023年
1	米国	オランダ	ルクセンブルク	ルクセンブルク	ルクセンブルク	アイルランド	アイルランド
2	カナダ	ルクセンブルク	米国	米国	ノルウェー	ルクセンブルク	ノルウェー
3	オーストラリア	米国	ベルギー	ノルウェー	米国	米国	ルクセンブルク
4	ドイツ	ベルギー	イタリア	イタリア	アイルランド	スイス	スイス
5	ベルギー	イタリア	ドイツ	イスラエル	スイス	ベルギー	米国
6	ニュージーランド	アイスランド	オランダ	ベルギー	ベルギー	ノルウェー	ベルギー
7	スウェーデン	ドイツ	アイスランド	スイス	イタリア	デンマーク	デンマーク
8	イタリア	カナダ	フランス	アイルランド	オランダ	フランス	イタリア
9	アイスランド	オーストリア	オーストリア	オランダ	フランス	オランダ	オーストリア
10	オーストリア	ギリシャ	カナダ	フランス	デンマーク	オーストリア	オランダ
-	日本 (19位)	日本 (21位)	日本 (13位)	日本 (20位)	日本 (21位)	日本 (29位)	日本 (32位)

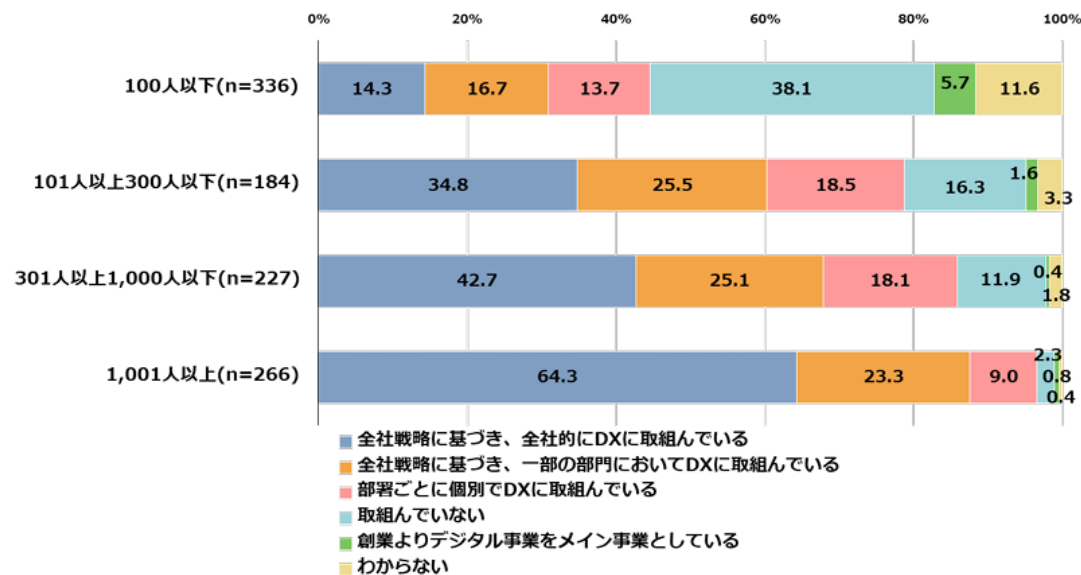
出典元：日本生産性本部「労働生産性の国際比較2024」

3：DXの遅れやDX人材・スキル不足

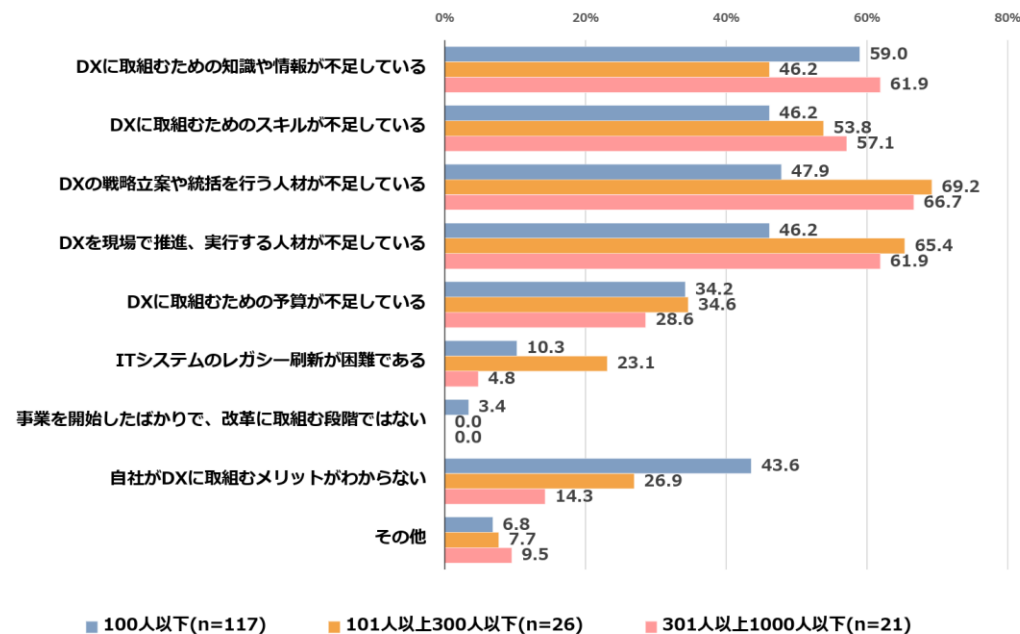
DXの取組状況を従業員規模別に見ると、「1,001人以上」の企業では全社または一部の部署でDXが進んでいる割合が96.6%に達する一方、「100人以下」の企業では44.7%にとどまり、2倍以上の差があることが分かります。

また、DXに取り組めていない理由として、「100人以下」の企業では「DXに取り組むための知識や情報が不足している」（59.0%）、「自社がDXに取り組むメリットがわからない」（43.6%）といった課題が挙げられています。さらに、「101人以上300人以下」および「301人以上1,000人以下」の企業では、DXに取り組む人材が不足している回答が60%を超えており、企業規模に応じたDX推進の課題が明らかになっています。このように、国内企業では特に「知識・情報の不足」や「DX人材の不在」が大きな障壁となっており、DX推進には社内でDX人材を育成・確保することが重要であり、難しい場合は外部の専門家を活用することも有効な選択肢となります。

図表 1-2 DXの取組状況（従業員規模別）



図表 1-5 DXに取り組まない理由（従業員規模別）



人手不足・低生産性・DX停滞…現場が直面する業務の壁

「生産性向上やDXを進めたいけど…」

現場が忙しくて改善に
手が回らない



業務の効率化を進めたいが、
リソースが不足している



ITツールを導入しても、
運用できる人材がいない



業務負担が増えて、本来やる
べき業務に集中できない



自社対応だけでは生産性もあがらず、DXも進まない…このままだと

- ・ 慢性的な人手不足により、既存メンバーへの業務集中が進行
- ・ 属人化や非効率な業務が残り、生産性が伸び悩む
- ・ ITツールを導入しても定着せず、DXも思うように進まない
- ・ 結果として残業や離職が増え、さらなる負担増の悪循環に

人手不足・低生産性・DX停滞…現場が直面する業務の壁

こうした課題に直面する企業が、生産性向上やDXを実現するためには

- **業務体制の見直し**
- **IT・テクノロジーの導入・活用**
- **外部委託**

など、抜本的な改善方法が求められます。

人材不足・低生産性・DX推進の課題を解決するための選択肢

企業が直面する「人手不足」「労働生産性の低さ」「DXの遅れ」に対して、主に3つの対応策があります。

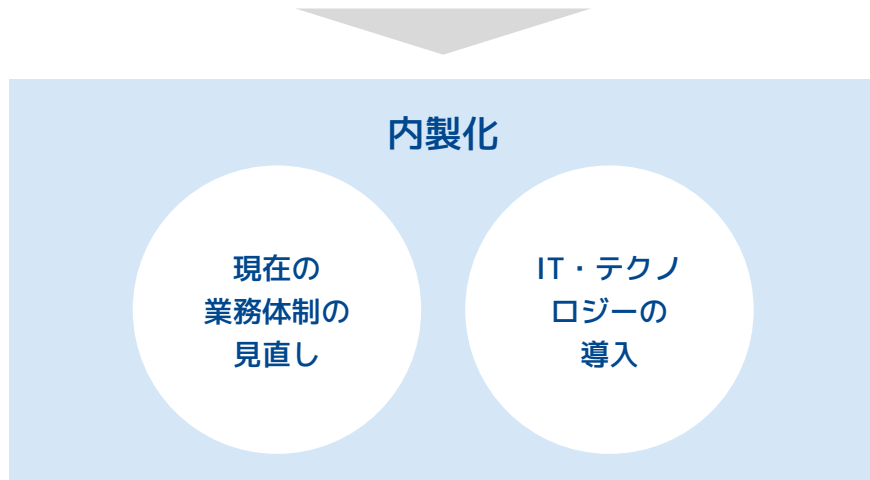
	現在の業務体制の見直し	IT・テクノロジーの導入・活用	外部委託
方法	内製化 ・ リスキリング（DX人材の育成） ・ 社内業務プロセスの見直し	内製化 ・ AI/RPAを導入し業務プロセスを自動化 ・ iPaaSを活用しシステム連携	外部リソースの活用 ・ BPO（業務の外部委託） ・ BPS（Business Process Services）
メリット	・ ノウハウが社内に残る ・ 柔軟にカスタマイズ可能	・ 業務の効率化・省人化が可能 ・ 運用コストを削減できる	・ 自社の負担を軽減できる ・ 最新のテクノロジーを活用できる
デメリット	・ 育成や教育に時間・コストがかかる ・ 人手不足の根本解決にはならない	・ 導入・運用に一定の知識が必要になる ・ 業務によっては適用が難しいケースも発生	・ 外注コストが継続的に発生する ・ 委託範囲の調整が必要
向いている企業	・ 社内に業務知識を蓄積したい ・ DXを推進するための時間やリソースがある	・ 定型業務を効率化したい ・ DXに取り組みたいが、スモールスタートしたい	・ 社内の業務負担を軽減したい ・ DXを進めたいが、専門知識や人材が不足している
導入スピード	中長期	短～中期	短期

「内製」と「外部活用」どちらが最適？自社の体制に合わせた選択を

内製化と外部活用、それぞれの方法にはメリットと制約があり、業務の特性や社内の体制に応じて最適な選択肢は変わります。企業の課題やリソース、コストに応じた適切な方法を選択し、生産性向上とDXの推進を図ることが重要です。

- 業務効率化やDXを、まずは自社で進めたい
- 社内に改善のノウハウやITスキルを蓄積していきたい
- 将来的に外部に頼らず、自走できる体制を目指している

- 人手不足や業務負荷が深刻で、改善に手が回らない
- DXを進めたいが、社内に知見・スキルがなく足踏み状態
- イレギュラー対応や判断を伴う業務が含まれ、ツールだけでは対応しづらい



業務を外部に任せながら、テクノロジーも活用して業務全体を改善したいなら「BPS」がおすすめ

「BPS（Business Process Service）」とは

BPS（Business Process Services=ビジネス・プロセス・サービス）とは、企業の業務プロセスを、テクノロジーと業務改善のノウハウを活用して最適化するアウトソーシングサービスのことです。簡単にいうと従来のBPOをさらに進化させたサービスと言えます。

今までのBPO（業務の外部委託）サービスは、人の手による業務委託が中心でしたが、BPSではRPAやAI、OCRなどのデジタル技術を主軸として活用し、業務の最適化を図るのが特徴です。BPSは、BPO（アウトソーシング）にデジタル技術を組み合わせた新しい外部委託の形であり、「人×テクノロジー」の力を活かして、企業の業務効率化を推進します。

近年注目されているBPaaSや従来のBPOもBPSの一部に含まれるため、企業は自社の課題に合わせた最適な業務プロセスを選択できます。

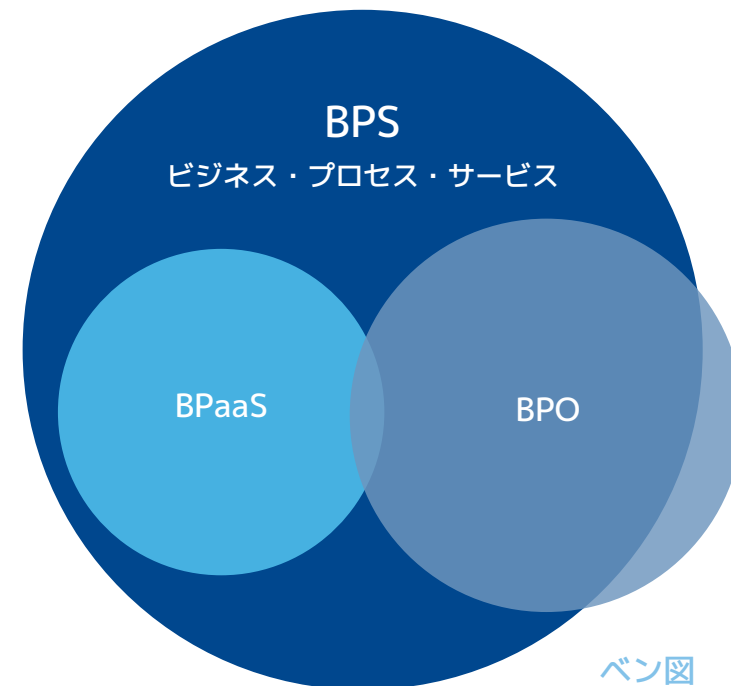
従来のBPO

企業の業務プロセスを外部の業者に委託。
あくまで「人が業務に対応する・代行する」ことがメイン。



BPS（Business Process Service）

企業の業務プロセスを外部に委託。
「人の判断力・創造力」×「テクノロジーの処理能力・自動化」を組み合わせ、業務をより効率化。



BPSとBPO、BPaaSの主な違い：比較表

業務効率化・外部委託・クラウド活用の主な手法である「BPS」「BPO」「BPaaS」について、それぞれの違いをご紹介します。

	BPO (業務の外部委託)	BPaaS (ビジネスプロセス・アズ・ア・サービス)	BPS (ビジネス・プロセス・サービス)
サービス概要	人が業務を代行するアウトソーシング	標準化された業務プロセスをクラウド経由で利用するサービス	人の判断+デジタル技術で業務を効率化
目的	コスト削減、ノンコア業務の負担軽減	初期投資の抑制、迅速な導入	業務プロセスの高度化、業務品質の向上、継続的な改善
提供範囲	事務作業やカスタマーサポートなど、決まった業務の外部委託	クラウドで提供される業務システムを活用	定型業務+RPAやAIなどのデジタル技術を活用した業務分析・改善・最適化
活用技術	人的リソース（労働力）が中心	クラウドサービス	RPA、AI、BI、iPaaSなどのデジタル技術
特徴	外部の専門業者が業務を代行し、人的リソース削減が可能	クラウド上で標準化・自動化された業務プロセスをサービスとして提供	「人×テクノロジー」で業務プロセスを最適化
コスト	継続的な外注費用が発生	従量課金制が多く、使った分だけ支払う形が多い	BPOより初期費用がかかるが、長期的にコスト削減できる
導入スピード	短期	短期～中期	短期～中期

BPSとBPO、BPaaSの主な違い：サービス例

BPOは最も基本的な業務の外部委託、BPaaSはクラウド環境での業務標準化、
BPSは外部委託にテクノロジーを掛け合わせ、業務プロセスごと効率化する進化系サービス

BPO

業務を外部に任せる
= 「人」の労働力に依存したサービス

サービスの具体例

- ・ コールセンター業務
- ・ データ入力
- ・ スキャニング業務
- ・ 経費精算
- ・ 給与計算・年末調整の事務代行
- ・ Webサイトのコンテンツ更新
など

BPaaS

クラウド上で「業務効率化サービス」
を利用する

サービスの具体例

- ・ クラウド型人事労務管理サービス
- ・ クラウド型経費精算サービス
- ・ 電子契約サービス
- ・ Web請求書発行サービス
- ・ 採用管理プラットフォーム
- ・ デジタルマーケティングサービス
など

BPS

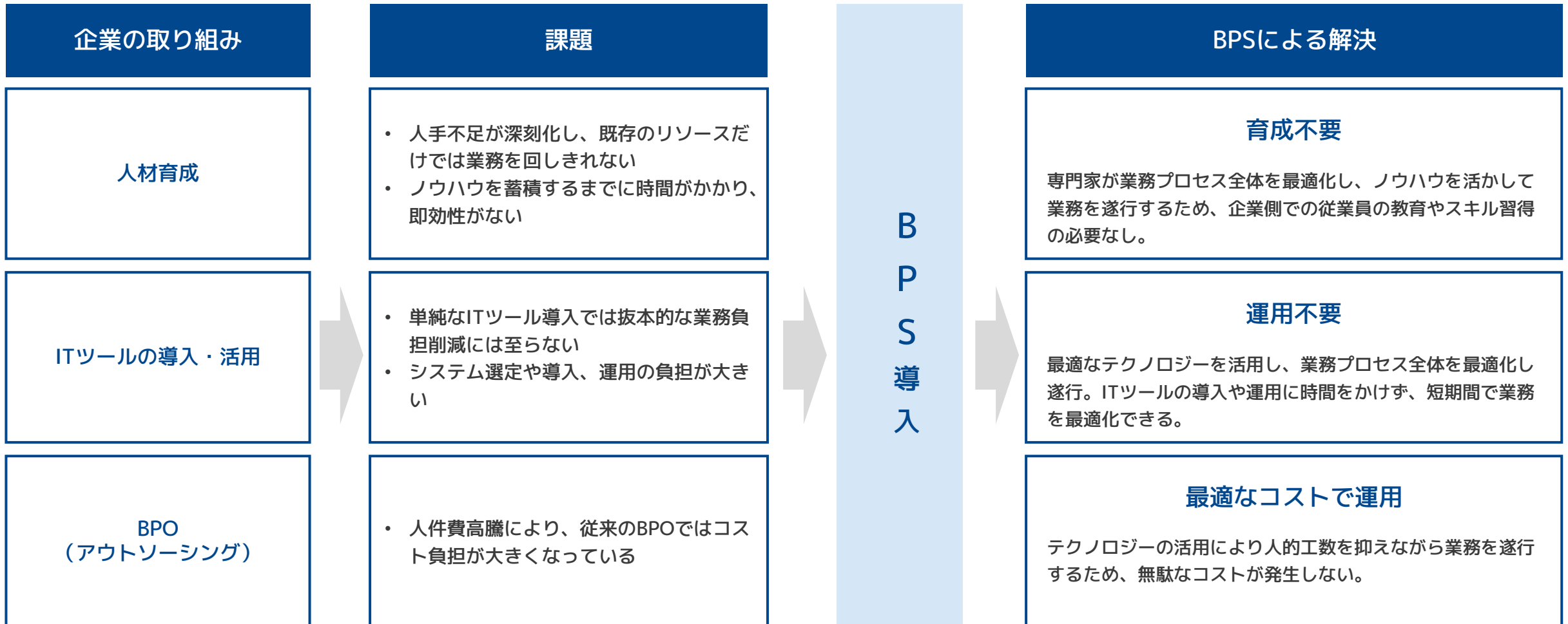
外部委託にテクノロジーを掛け合わせ、
業務プロセスごと効率化

サービスの具体例

- ・ 請求書処理のハイブリッド自動化
（途中人の確認・作業が入る業務を含む）
- ・ 過去の紙文書の電子化と管理体制の構築
- ・ 受発注業務における例外処理対応
- ・ デジタルと紙書類が混在する帳票や申請業務の受付
など

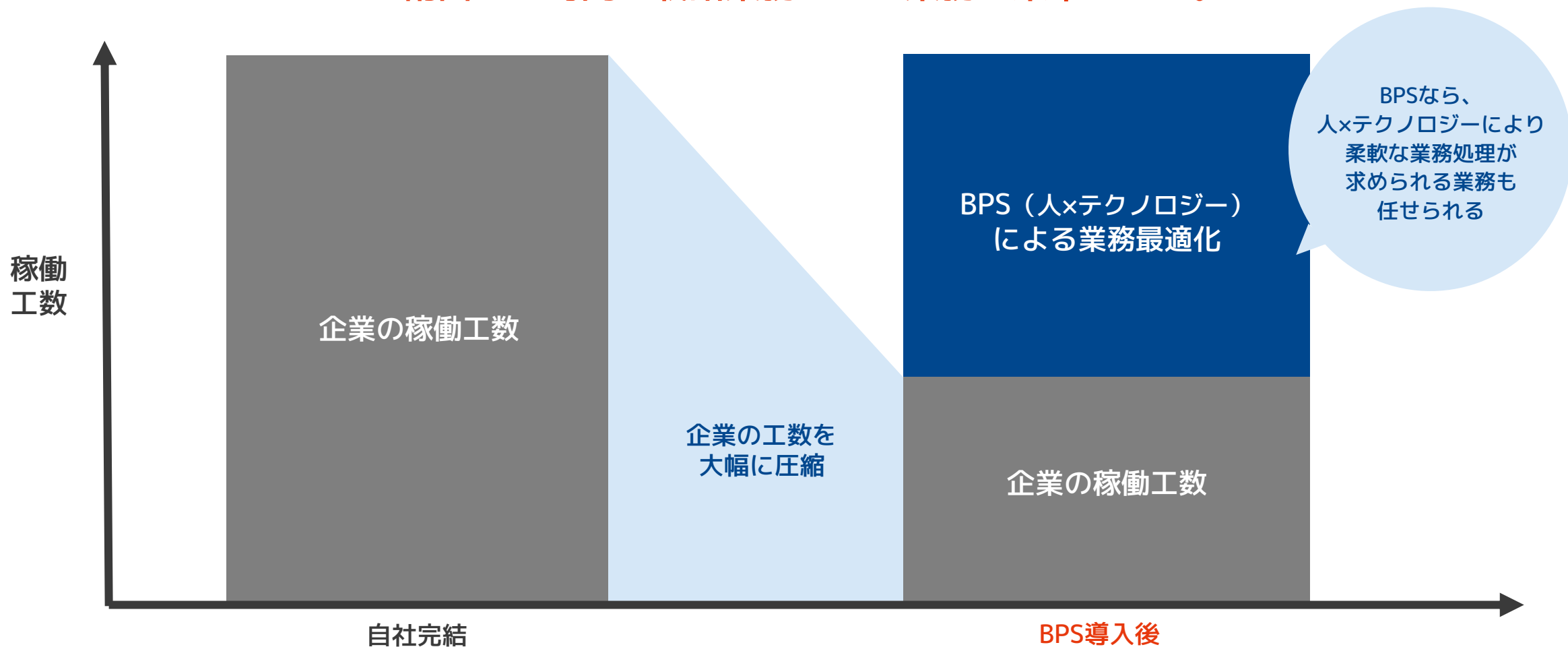
なぜBPSが注目されているのか

人手不足や業務負担の増加、ITツール導入の運用課題など、企業が直面する多くの課題に対し、BPSは最適なプロセス設計とテクノロジー活用により、業務全体の効率化を実現。



BPS導入によって期待される効果

BPSにより業務の工数を大幅に削減し、定型業務やバックオフィス業務の負担を最小化。
創出した時間で戦略業務・コア業務に集中できる。



BPSとは

BPSの導入メリット

BPSを利用することによるメリットは主に「コスト削減」「業務品質向上」「柔軟なスケーリング」の3つ。

\ BPSの3つのメリット /

01



コスト削減

02



業務品質の向上

03



柔軟なスケーリング

BPSの導入メリット1：コスト削減

コスト削減

人件費・採用コストの削減

業務の最適化により従業員の負担を軽減し、人件費を圧縮できます。業務負荷の軽減によって残業時間を削減し、新たな人材採用にかかるコストも抑制できます。

運用・管理コストの削減

BPSの導入により、自社で新たなシステムを選定・導入・運用するためのコストを削減できます。また、業務の標準化により管理負担が軽減され、スムーズな運用が可能になります。

外注コストの最適化

BPSではテクノロジーを活用することで、従来のBPOサービスよりも外注費を抑えることが可能です。さらに、業務量に応じた柔軟な調整が可能なため、無駄なコストを削減できます。



BPSの導入メリット 2：業務品質の向上

業務品質の向上

標準化による品質安定

テクノロジーを活用することで、業務フローを統一し、属人化や担当者ごとのやり方の違いをなくすることが可能です。さらに、ITツールによる自動化により作業ミスを削減し、安定した品質を担保します。

人によるサポート体制

BPSでは自動化による業務の効率化に加え、人の判断や対応が必要な業務にも対応できます。ルール化しづらい業務や個別対応が求められる作業も、テクノロジーと人のサポートを組み合わせることで、業務品質の向上と安定した成果の提供を実現します。

継続的な改善と品質向上

定期的な業務の見直しや改善を行い、継続的に品質向上を図る仕組みを提供します。BPSの活用により、変化する業務要件にも柔軟に対応し、最適な状態を維持することが可能です。



BPSの導入メリット3：柔軟なスケーリング

柔軟なスケーリング

業務量に応じたリソース調整

繁忙期には必要なリソースを増やし、閑散期には最適な形で調整することで、人員の過不足をなくし、効率的に業務を運用 できます。これにより、固定的な人件費の削減にもつながります。

急な業務増加にも対応

突発的な業務量の増加にも、迅速にリソースを確保し対応 できるため、業務の遅延や対応漏れを防止します。特に、短期間で処理が必要な業務や予測が難しい業務にも柔軟に対応できるのが強みです。

事業成長に応じた最適化が可能

事業拡大や新規業務の追加にもスムーズに対応し、必要に応じて業務フローの見直しや最適化を実施 します。成長フェーズに応じた業務運用が可能になり、企業のスケールアップを支援します。



BPS導入を成功させるための3つの注意点

BPS導入は多くのメリットや効果がありますが、導入効果を最大化し、失敗を避けるためには、事前にいくつかの点を理解しておくことが重要です。

以下の点に注意しておくことで、スムーズな導入と長期的な成功に繋がります。

ポイント1



業務プロセスの「棚卸し」と「可視化」が不可欠

BPSは「丸投げ」や従来の代行サービスとは異なります。何を、どこまで、どのように委託するかを明確にするため、自社の業務プロセスを事前に整理し、可視化しておく必要があります。

ポイント2



委託先との「密なコミュニケーション」が重要

BPSは一度導入すれば終わりではなく、委託先と連携して業務を改善していくものですので、継続的なコミュニケーションが欠かせません。定期的なミーティングの設定や、例外処理ルールの明確化、情報共有を徹底して行いましょう。

ポイント3



「情報漏洩リスク」への徹底した対策

業務を外部に委託するということは、自社の機密情報や個人情報をパートナー企業と共有することを意味します。安心して任せるために、委託先のセキュリティ体制をチェックすることが重要です。セキュリティ認証の確認や契約内容の精査、管理体制をしっかり把握しておきましょう。

BPSの対象業務

BPSは、業務プロセス全体を見直し、デジタル技術とアウトソーシングを組み合わせる最適化サービスです。

下記に記載のない業務でも、お客様のニーズに合わせて最適なソリューションをご提案いたしますので、お気軽にご相談ください。

経理部門

経理業務を自動化し、入力作業を高速化。処理ミスを削減し、経理業務の負担を軽減できます。

- 請求書処理
- 各種帳票のデータ化
- 経費精算処理
- 仕訳入力
- 売掛・買掛管理
- 領収書・証憑電子化
- 月次決算処理
- 財務レポート作成

人事・総務部門

従業員情報の管理や給与計算をシステム化し、手作業の負担を削減。業務の正確性を向上させます。

- 従業員情報の登録・更新
- 勤怠管理データの集計
- 給与計算処理
- 応募者情報の管理・分析
- 教育・研修管理
- 社内問い合わせ対応
- 備品・施設管理
- イベント参加者管理

労務部門

社会保険手続きや年末調整の処理を自動化し、業務の正確性を向上。労務管理の負担を軽減します。

- 各種書類手続
- 各種書類作成
- データ入力・報告フローの自動化
- 労働時間の管理・分析
- 各種申請・届出管理
- 有給休暇・残業管理
- 従業員満足度調査の分析

営業部門

顧客情報や営業活動のデータを一元管理し、営業の効率を向上。データ活用による売上向上を支援します。

- 顧客リストの管理・更新
- 書類作成・書類データ化
- 営業日報の集計・分析
- 問い合わせ対応
- 案件管理・フォローアップ
- 営業メールの自動送信
- 売上予測・分析

購買・物流部門

発注処理や在庫管理をシステム連携し、業務の効率化を実現。発注・納品のスムーズな管理を支援します。

- 発注処理・在庫管理
- 仕入・支払データ管理
- 納品書・受領書処理
- 物流データの可視化
- 購買申請・承認フローの自動化
- 帳票のデータ化・入力
- サプライヤー評価・管理

その他

その他、業界や職種に特化した業務でも幅広く自動化することが可能です。

- RAG構築
- 契約書・紙のデータ化
- カスタマーサポート対応
- 広告データの集計
- FAQの自動生成・管理
- 各種レポート作成
- PP開発・構築

スターティアレイズのBPSソリューション

業務改善に強い × 自動化にも強い × 柔軟な対応力

「ツール・技術」による
業務自動化

RPA
iPaaS
OCR
AI



バックオフィス業務
の課題解決

人事	労務	総務
経理	営業事務	購買
経営企画	マーケ	CS



「人」による
コンサルティング

- ・業務整理
- ・ツール選定
- ・業務代行
- ・リスキリング



スターティアレイズが提供するBPSの特徴

1. 業務プロセスの最適化を構築

スターティアレイズが長年培ってきた自動化の知見と業務改善のノウハウを活かし、最適な業務プロセスを構築。あらゆる業務の効率化・標準化を支援します。

2. 最新テクノロジーを活用した自動化

RPA/iPaaS/生成AI/AI-OCRなどの最新技術を活用し、単純作業や定型業務の自動化を推進。業務の手間を削減し、作業スピードの向上と精度の安定化を実現します。複数システム間の連携も可能なため、業務の流れ全体を最適化できます。

3. 人×テクノロジーで幅広い業務に対応

非定型業務や人の判断が必要な業務もテクノロジーと人を組み合わせることで、単なるアウトソーシングではなく業務プロセス全体を見直しながら、最適な方法で業務を遂行します。

人が対応する業務と自動化できる業務を適切に組み合わせることで、柔軟かつ効率的な業務運営を実現します。

「業務プロセスの最適化 × 自動化 × 柔軟な対応」で、お客様の業務負担を軽減

スタートティアレイズのBPSは依頼できる業務の幅が広い

スタートティアレイズのBPSは、定型業務も非定型業務も対応可能です。データ入力や帳票処理のようなルーチン業務に加え、人の判断やチェックが必要な業務もテクノロジーと組み合わせ対応できます。従来のBPOでは対応が難しかった業務も、最適な方法で依頼できるため、業務の効率化と精度向上が期待できます。

定型業務・非定型業務の対応

データ入力や請求処理、書類チェックなどの単純作業から、内容の判断や調整が必要な業務まで幅広く対応。業務の特性に応じて最適な方法を選択し、負担を軽減します。

人のチェック・修正が必要な業務にも対応

システムやRPAだけでは処理できない、データの確認や修正、例外対応などの業務も依頼可能。自動化と人の作業を適切に組み合わせることで、業務の正確性を確保します。

幅広い業務カテゴリに対応

経理業務（仕訳処理・請求対応）、人事・総務（給与計算・勤怠管理）、営業サポート（見積書作成・顧客データ管理）など、多岐にわたる業務を包括的に支援。部署ごとの負担軽減にも貢献します。



BPSソリューション事例：保険業界

課題：保険金請求の処理にかかる業務負担

保険会社では、病院で受け取る領収書と、保険会社指定のフォーマットに記入した請求書をもとに、保険金請求を処理する必要があった。しかし、病院ごとに異なるフォーマットの帳票が多数存在するため自動化が難しく、人の手による入力や確認が不可欠で作業工数が膨大だった。

紙帳票の処理が手作業のため、データ入力に膨大な時間がかかる／病院ごとに異なる領収書フォーマットの処理が課題／人的リソース不足により、処理スピードの遅延が発生

BPS導入後：帳票のテキストデータ化～システム入力までの一連の業務工数を削減

スターティアレイズのBPSを活用し、請求書・領収書のデータ処理を効率化。保険会社は業務負担を軽減しながら、正確なデータを管理できる環境を構築。BPSの導入により、手作業による業務負担が大幅に削減され、保険金請求処理の精度とスピードが向上。本来の業務に集中できる環境を実現できた。

成果・効果	工数の大幅削減	データ入力や確認・修正にかかる作業時間を削減し、企業の業務負担を大幅に軽減
	正確なデータ入力による業務品質の向上	自動化ツール×人による確認作業を組み合わせることで、入力ミスを防止
	処理スピードの向上	自動化によって処理スピードが向上し、請求対応のリードタイムを短縮



お問い合わせからご導入までの流れ

業務プロセス全体を見直し、最適な形でBPSをご提案・導入いたします。



※導入の流れは一例です。企業様によって進め方が異なります。

料金プラン

要問い合わせ

業務の内容やボリューム、体制のご希望によって最適なプランをご提案しております。そのため、料金は一律ではなく、企業様ごとに個別にお見積もりさせていただいております。

まずはお気軽にご相談ください。ご要望や状況に応じて、最適な形をご案内いたします。

BPSのお問い合わせ



スターティアレイズではニーズに合わせて企業の課題を解決できます

スターティアレイズでは、企業の業務効率化・生産性向上を支援するために、以下のソリューションを提供しています。

リスキリング／研修



DX人材育成のための法人向けリスキリングをはじめ、生成AI研修やPower Automate (Desktop) などのRPA研修、Power Platform研修など、業務効率化やDX推進に必要なスキル向上を支援します。社員のスキル強化を通じて、企業の業務改善を促進します。

RPA／AI-OCR



RPAや生成AI、AI-OCRを活用し、企業の業務プロセスを自動化するためのソリューションを提供しています。定型業務の自動化による業務負担の軽減と生産性向上を実現し、ヒューマンエラーの削減にも貢献します。

iPaaS



iPaaSを活用することで、クラウド上のSaaS間のシステムをスムーズに連携し、手作業によるデータ入力や管理業務の負担を削減します。複数のツールを効率的に統合し、業務の自動化と最適化を支援します。

BPS (Business Process Service)



BPSは、RPAやAIなどのデジタル技術とBPO（アウトソーシング）を組み合わせた業務支援サービスです。企業の課題に応じて、業務プロセスの最適化を実現し、業務負担の軽減と生産性向上をサポートします。

会社概要

商号	スターティアレイズ株式会社	I S M S 認 証
	スターティアホールディングスグループ 東京証券取引所 プライム市場（証券コード：3393）	
本社所在地	東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス19階	P M S 認 証
設立	2017年11月10日（営業開始日：2018年4月2日）	
代表者	代表取締役社長 古川 征且	
資本金	9,000万円	
代表電話番号	03-6316-1488	
事業内容	バックオフィスDX支援事業	

スターティアグループは
ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）の
国際規格「ISO/IEC27001」並びに国内規格
「JIS Q 27001」の要求事項に適合していることを証されて
います。



スターティアグループは
PMS（個人情報保護マネジメントシステム）の
国内規格「JIS Q 15001」の要求事項に適合していることを
証されています。



グループ概要



商号	スターティアホールディングス株式会社
本社所在地	東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス19階
設立	1996年2月21日
代表者	本郷 秀之
資本金	824,315千円
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：3393）



会社概要



働き方の選択肢を増やす

事業領域

労働力不足という社会課題に対して
仕事の効率を上げる、
「簡単、便利、安心」なサービスを提供。

お問い合わせ先

BPSに関するお問い合わせはこちらから

お電話でのお問い合わせ先

 **0120-277-031**

営業受付時間 9:00～18:00（土日・祝祭日除く）

お問い合わせフォーム



[お問い合わせフォーム](#)

メールでのお問い合わせ先



Mail:info@reiworq.com

本資料の掲載内容（画像、文章等）について

本資料の掲載内容（画像、文章等）の一部及び全てについて、
スターティアレイズ株式会社への事前の許諾なく、
複製、転載、転用、改変等の二次利用を固く禁じます。

